

解 答

- 一 問一 食欲を満たすためではなく、お茶に至るための食事としての懐石料理は、分量的に最低限のものでいいと考える、貧しさの美学が、日本人にはあるから。
豊かな風土にあって、ことさらに自己主張をせず、身を潜ませる生き方をしてきた日本人には、極小を愛でる美意識が備わっているから。
- 問二 a ウ b ア
- 問三 1 エ 2 ア 3 ウ 4 イ
- 問四 イ
- 問五 強い自己
- 問六 お茶という最終目的を失った極小の懐石料理を、美しい料理として崇めること。
- 問七 日本人に、自己を強く意識することも自己主張することもなく、自分自身をも自然のディテールとして潜ませることを許し、極小を愛でる美意識を育んだ、自然の、母性的な湿度にあふれたところ。
- 二 問一 オ
- 問二 鼓くらべに勝った観世市之丞が、自ら折った、鼓を持つほうの腕
- 問三 どうかして勝とうとする心
- 問四 鼓くらべに勝たねばならないという心
- 問五 A 音楽は人の世で最も美しいものだということを理解せず、鼓くらべという、人と優劣を争う場で、自分が優っているという思い上がった気持ちで鼓を打ったことは間違いだったということ。
B 自信にあふれたお留伊の鼓は、かつてないほど上手だったので、必ずお宇多に勝っていたはずだったということ。
- 問六 音楽で優劣を争おうとしたみにくさや思い上がりを戒め、音楽がそれをこえた、人の世で最も美しいものだと教えてくれた人だから。
- 問七 a 快く b 意外 c 解放 d 興味 e 困難